

忍耐された方イエス

ヘブライ 12 : 1 - 14



司祭 ヨハネ 井田 泉

2016年8月14日
聖霊降臨後第13主日

奈良基督教会にて

主日に朗読される聖書日課のうちの使徒書は、先週から4回連続で新約聖書の「ヘブライ人^{じん}への手紙」が選ばれています。「ヘブライ人^{じん}への手紙」、略して「ヘブル書」は、新約聖書の後半に収められたかなり長い手紙で、13章あります。

もう40年も前のことをふと思い出しました。神学生時代にこのヘブル書を学んだときのことですが、この手紙にはこういう特徴があると。何かと言うと、この手紙には「教理」を語る部分と「倫理」を語る部分と、その二つが織りなされている。言い換えると、「神さまの救い」を伝える部分と、「クリスチャンとしてふさわしい生き方を呼びかける」部分が、何度も交互に重ねられている、というのが特徴だということです。

このヘブル書が語りかけている最初の読者は、ローマ帝国による迫害の中にありました。イエス・キリストを信じる人たちが、捕らえられ、拷問を受け、場合によっては殺されていったのです。その苦難の中にある教会と信徒を励ますためにこの手紙は書かれました。

弱った人々を励ますためには二つのことが必要です。第1は、神の愛と救いがいかに確かですばらしいものであるかをはっきりと知らせること。第2は、主イエス・キリストを見つめて信じてしっかり歩もうと呼びかけること、です。

ところで明日は8月15日、日本の敗戦記念日です。戦争の時

代、わたしたち日本聖公会は国家から迫害を受けました。「日本聖公会」という教派・教会自体の存在が許されず、解体されました。一部の教会は日本基督教団に合同し、他は単立の教会となりました。当時の佐々木^{しんじ} 鎮次、須貝^{とどむ} 止の二人の主教はスパイ容疑で憲兵隊の取調べを受け、過酷な留置所生活を数ヵ月強いられました。その結果、お二人の主教は戦後の日本聖公会の再建に尽くされつつ、早くに逝去されました。わたしたちの教会も迫害を経験したのです。

しかし同時に日本聖公会には大きな反省点があります。戦時中、わたしたちの聖公会は国家の圧力に屈し、あるいは率先して日本の戦争に協力しました。

70年余り前のその時代、日本は日本の統治下にあった朝鮮の教会に対して神社参拝を強制しました。これに抵抗した人々はきびしい弾圧を受け、およそ200の教会が閉鎖させられ、約50名が獄中で殉教しました。韓国の聖公会も苦難を強いられました。

それから50年あまりたった1996年、日本聖公会総会は「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」を決議して、神とアジアの隣人に対して心からの謝罪をしました。このことから、日本聖公会は大韓聖公会をはじめとして諸外国の教会からの信頼を得るようになったのです。

国家の誤ったあり方を黙認したり協力したりする過ちを、教

会として二度と繰り返してはなりません。今、わが国はそのような危険な方向に向かっています。本日配布した「2016年 日本聖公会 8.15 メッセージ」をぜひお読みください。

さて今日のヘブル書に戻って 12 章 3 節の言葉を聞きましょう。

「あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。」

今、わたしたちはかつてのような迫害にさらされてはいません。しかし日本のキリスト教全体も、日本聖公会も京都教区も、またわたしたちの教会も軽くない課題を抱えています。

それだからこそ、聖書に耳を傾けたいのです。

「あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。」

この手紙の著者は、宛先の教会の人々のことを心配しています。困難が続いて将来が見えず、疲れ果ててしまうのではないか。希望を失ってしまうのではないか。

「あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように」

これが著者の心配であり願いです。どうすべきか。現状の困難だけを見ていたら、つぶれてしまいます。

目を上げて、わたしたちの救い主を見つめて、この方のことをよく考えてほしい。なぜなら、救い主イエス・キリストにのみ、希望があるからです。

「御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。」

「忍耐された方」とは主イエスのことです。わたしたちの救い主イエスも迫害を受け、忍耐されました。

主イエスは真心を尽くされたのに、愛をもって手を差し伸べられたのに、憎しみと敵意がイエスを取り囲みました。

主イエスは弟子たちの無理解と弱さと裏切りを忍耐されました。大祭司アンナスおよびカイアファの権威の下に開かれたユダヤ人議会では、「イエスは神を冒瀆した」として糾弾され、ローマ総督ポンティオ・ピラトの裁判にかけられ、兵士たちのあざけり、鞭打ちを受けてそれに耐え、最後は十字架の苦難を耐え忍ばれました。

「御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方」

主イエスは、ただ肉体の苦痛のみならず、愛に対して敵意で返し、真実に対して偽りでもって襲いかかる人々の反抗を忍耐されました。

わたしたちが困難を負うとき、忍耐の主がともにおられます。人を思いやり、正しいことを求めた結果、人に理解されずにかえって非難されたり攻撃されたりするとき、主がともに重荷と傷を負ってくださいます。

わたしたちの忍耐が限界に達するときに、重荷を一緒に担ってくださる主は、なお希望をもって一緒に進もうと励ましてくださるのです。

わたしたちは主イエスに招かれました。イエスを信じて従う信仰の歩みを、途中で放棄してはなりません。直前の 12 節を見ましょう。

「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」12:2

イエスはわたしたちの信仰の初めを備えてくださったかたです。わたしたちの信仰の歩みの初めにイエスがおられて、わたしたちを導いてくださいます。わたしたちの信仰の創始者であり、先導者なのです。

しかも主イエスは「信仰の完成者」です。わたしたちの誤り多い、恥多い、不徹底な信仰を、ご自分に引き受け、見守りつつ完成に至らせてくださるのです。

わたしたちの教会のはじめにおられ、完成へと導いてくださる方。わたしたちひとりひとりの信仰の初めにおられて、わたしたちを導きつつ、完成へと導いてくださる方を見つめましょう。この方の中に、光、希望、信仰、愛があるのです。

祈りましょう。

神さま、さまざまな困難や課題のゆえに疲れて力をうしなう

とき、わたしたちの救いのために迫害と苦しみを忍耐された救い主を仰がせてください。忍耐してわたしたちを見守り、導いてくださる主イエスに頼って、信仰の道を最後まで歩ませてください。平和を実現するわたしたちにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**